満州日報

○報價目
每月收取八角代賣所及送報人并無分毫加增

○告白刊例
一行五號二十一字起碼登一日者每行二角每登十日行一角五分登月者每行每日一角登長年者價當面議
從減　每張四百文

青豆價錢五吊一百文至五吊五百文
小米價錢六吊九百文至六吊二百文
紅糧價錢五吊九百文至五吊二百文
合豆價錢四吊八百文至四吊七百文

全　赤　札幌　蜂印香竄葡萄酒
全　味　麥酒
九　全　大樽　四打入　全
同五圓　同四圓　同九圓三十錢　同九圓八十錢　同二十二圓五十錢
全　桃　梨　人形　ミルク
二打　四打半　全　全
同八圓五十錢　同十一圓　同九圓五十錢　同十二圓五十錢
一全　切込　全　全　全
澤龜　サツポロビール　正味四斗四升入
十四圓五十錢　十七圓　九圓七十錢
（宅合名會社調查）

特別廣告

◢資本金貳千四百萬圓
◢積立金一千零拾四萬圓

本支店出張所
横濱　神戸　東京　長崎　大阪
倫敦　里昂　紐育　桑港　布哇
孟買　香港　上海　天津　北京
大連　旅順　奉天　芝罘　鐵嶺

電話　十番　支配人室
　　　百八番　事務室

横濱正金銀行牛莊支店

來ル廿五日ヨリ三十日迄支那正月ニ付臨時休業致候也

明治三十九年一月廿二日

横濱正金銀行牛莊支店

清酒東自慢、白鹿
朝日ビール
孔雀印平野水、箱根水
上等石炭
以上極廉價を以て發賣致候間御用仰付被下度候也

松茂洋行商業部
河岸通（電話五十二番）

満洲日報各地賣捌所
満洲日報廣告取次所
大連市穩岐町三百三十八號
日華運輸公司
遼陽　遼陽倶樂部
谷口今朝太郎

三井洋行
倉庫部

啓者本行開創在中外通商各埠已有年歷所售棉紗棉布火柴煤炭糖海參等各貨均皆物美價廉名馳遠近如蒙各商光顧請駕臨是荷者

●精製白砂糖新入荷物あり

今回倉庫所在地（青堆子精搗場上隣り河岸）の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は全所へ御照會被下度願上候
（電話百二十八番）

宅合名會社[illegible]

本號前在營口東營元神廟街自造日本酒澤龜印并一切雜貨其名譽已傳播於滿洲全地矣今又擬在西營子老爺閣街同盛德院内分設支店一所發賣綿絲細布火柴絲布絨衣帶襯布手巾花巾東洋緞子洋陵鈕表貨物俱全而價值尤格外從廉且貴客一賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商議一切凡中外士商賜顧者請早臨爲幸

總司理人　田中賴之助謹白

東盛和

本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行并滙兌銀錢兼代客經理買賣租船裝運事宜營口東兩處自建碼頭能泊輪船二艘棧房地方寬大凡泊輪船裝卸貨物極爲利便囤貯油餅豆米麥更爲合宜兼置有輪船一艘名曰多利能載重二萬担如有欲租船運貨及存棧貨物水脚棧租格外從廉貴客賜顧請到小號面議是荷
總司理人　葉亮卿謹白

東永茂

機器油房在營口創辦油榨生意多年以本營業非祇做油房壹學及經理買賣雜貨布疋等物并代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚遐邇知之
正理事潘玉田　副理事金德魁　設在營口西北街路南

西義順

本號開設營口西街老爺閣前路南警乙第五號專管裝卸輪船上下各貨照料穩妥堆棧寬大凡中外士商賜顧者請認明招牌決不致悞
本主人敬啓

仁裕號

係裝運各幫火輪船生意兼賣各封洋什貨糧石等此佈
營口西大廟街路北警乙第十二號

恒有長

本號開設在西大廟街路南第十一號廣福雜貨一應俱全價値格外從廉克己并另設銀爐包營鎔鑄以應急需久爲中外士商所推許凡賜顧者請認明招牌爲荷

元茂盛

油坊買賣元荳油荳餅雜色粮石以及代客購辦雜貨布疋一概發行裝運沙寗鴨船交易南北客商歷有年矣爲此謹白
開設營口西街老爺閣前路北警乙第四十九號

德商　瑞生洋行

啓者本行由外洋運來金山松木大小方子厚薄板片以及樓板並有道木性皆堅固貨高價廉賜顧者乞至本本廠面議
營口西街潮港西本行主人啓

代代木烟公司

本行專售日本官造紙烟星象牌（斯達）櫻花牌（提利）百合花牌（利利）均巳馳名内外茲特選上等烟料加工精製雙仙鶴牌（隆沽來福）清香撲鼻佳美適口而價値極廉諸君欲購可向敝行或請至本行公司代理店西營口ナ德元採買庶不致誤謹此廣告

茲爲軍川手票公定行市變動敝行販賣各種紙烟雙鶴牌（隆沽來福）百合花（利利）櫻花牌牌（提利）星象牌（斯達）無論批發零售均爲格外減價以廣招徠冀賜

森病院

一診察　自午前八時至正午十二時　自午後三時至午後五時
一往診　午後三時より
△患者の入院治療を諾す
△貧困患者の施療は正午十二時より一時迄
姙婦の入院を諾す（取扱主任産婆大道しけ子）

院主　森　穩
醫長　鈴木昌平
營口永世街（電話一五五番）

M. Iizuka,

Contractor,

Architect and Civil Engineer.

Plans and specifications made to order.

Estimates submitted.

MODERATE RATES.

No. 151 Yuwansinmiao

Ying Kow

謹告

昨年八月下旬營口秋田組閉鎖以後韓國の事業に着手致居り遼東北淸地方の營業は一切不仕從而店員等派遣致候事無之處頃日秋田組或に秋田商會の社員と稱し各地徘徊不正の行爲なすもの有之由聞及候得共弊商會には全く關係無之候に付此段爲念謹告仕置候也

明治三十九年一月

韓國仁川
合資會社　秋田商會
代表社員　秋田毅

一關内外廬漢鉄道貨物運輸
但シ營口新民屯間ノ鐵道輸送ハ特ニ充分ナル御便利ヲ圖リ可申候
一海關手續
但弊店事務所及郵船會社代理店内派出員ニテ事務取扱
一鈔關手續
但西營口鈔關裏手東玉昌方ニテ事務取扱
一船舶荷物取扱
一其他水陸貨物運輸ニ關スル諸業

右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候
營口西北街第二七二號

大清通運公司
營口支店

大日本政府特定
營口付紙捲煙草
満州一手輸入發賣

江副洋行
營口永世街

今回弊店に於て明治火災保險株式會社代理店引受候に付き建築物、商品、家具、什器、一切の火災保險精々御便利に取計可申御用被仰付度願上候

三井物産合名會社
牛莊支店
（電話六十六番）

和泉洋行

本店開設在營口重盛街、發賣毛布、手巾、小布衫、鏡子、錢袋、帽子、洋蠟、小刀及其餘各種雜貨一概俱全價値格外從廉克己、凡中外仕商賜顧者、請速臨爲幸、

大阪府堺市熊野町　藤原謹啓

田中牛莊分莊

啓者本舖開設於東營口綏定門外經大阪九三組精造東緊身洋式襪子羊肚手巾各樣新近進口來的貨寄於本舖代售格外從廉　賜顧者請光臨本舖面閱是幸

營口永世街第一八四號平野町
田中牛莊分莊謹啓

材木販賣
荒物

秋田洋行

營口永世街第一八四號平野町
本店　下關　秋田寅之輔商店

飯塚工程局
材料出售

啓者本局今特與日本北海道天鹽木料公司商訂以日本輪船運到各種木料品質精良久已馳名四遠以之架造屋宅及製各色傢具無不合宜且價値格外從廉克已凡中外士商賜顧者請來本埠東營口元神廟街本工程局面議不悞再本局新到各種木料東洋炸子貨眞價實以應各主顧急之需國本主人啓

倉庫業

倉庫位置
營口綏定門街（公和窰）院内
郵船會社碼頭ヨリ西二丁余商船會社碼頭筋向イ河岸ヘ半町ニシテ馬車ニ陸場ゲ便最適當ナル位置

新玉號倉庫部
（電話一五七號）

雑貨卸商

元神廟口街
關東公司雑貨部

代理
道勝銀行

啓者本行代理道勝銀行匯兌以及押款借款等項格外公道如蒙賜顧請移玉本行帳房面議可也

德商　瑞記洋行代理人謹啓

Rates for Advertisement 20 cts. per line.
Payable in Advance. Postage Included.
The Manchuria Daily Report Office.
Newchwang.
Telephone No. 29.

料金　一ヶ月以内…　長期連掲減價面議

發行所　清國營口中盛街
満洲日報社
（電話二九番）

東京電報

●支那學生團体の解散
（一月廿七日特別通信員發）支那學生の同盟入校反對團体は其目的を達したるを以て昨夜解散せり

●清官の敍勳
清國公使楊樞及特派列國視察大臣尚其亨兩氏は勳一等旭日大綬章に叙せらる（一月廿九日特別通信員發）

●日華學生會發會式
日清兩國學生の懇親を趣旨とする日華學生會は昨日其發會式を擧げたり大隈伯長岡子以下朝野の名士參會する者多く頗る盛會なりし

倫敦電報

●比島賣渡の風說
米國政府は比律賓群島を領有するの困難にして經費多きを感し此度同群島を日本に賣渡さむか爲め新任米國全權大使ライト氏をして日本政府と交涉せしむへしと專ら紐育に於て風說さるゝ所なり（記者曰く比島賣渡に就き或方に達せる報道に依れは其後華盛頓政府に於て打消されたりといふ）（一月二十四日發）

●漢堡印度間の新航路
獨國新聞紙の報する所に據れはペニンシュラー、ユンド、オリエンタル汽船會社は二月三日を以てハムボルグ及ひ印度間に兩週一回の新航路を開始することゝなり其船賃は頗る低減されたれはピー、オー、エント、ハウサ瀛船會社との競爭起るへしと云ふ（一月二十七日發）

●總選擧と各黨の新議席
英國總選擧に於て自由黨は三百八十二勞働黨は四十二統一党は百五十三國家党は八十四の議席を得たり

●保守黨員の讓與とバータ氏
ジャルヂーンマジリソ會社のケスウイツク氏はエプフヘ選擧區に於て多數を以て當選せり保守党員ギツブス氏はバルフオア氏に議席を與へむが爲めに倫敦市の候補を辭したるを以てバルフオア氏は反對なくして同市より選出せらるへし（一月二十八日發）

雜報

●川村大將への勅語
川村鴨綠江軍司令官の節賜り參内たる 勅語左の如し

勅語

卿鴨綠江軍ヲ指麾シ常ニ嶮難ナル地境ニ行動シ機ヲ失セス奉天附近ノ會戰ニ參與シテ偉功ヲ奏シ克ク其軍ノ任務ヲ達シ洵ニ朕カ望ニ副ヘリ

朕今親シク作戰ノ經過ヲ聽キ更ニ卿ノ勳績ト將卒ノ忠勇ヲ嘉尙ス

●滿洲露軍の實數と損害
ノヴオエ、ウレミヤ新聞の所報によれは日露平和克復の際滿洲軍總司令官リネウヰツチ將軍に屬したる兵數は將校一萬二千五百、卒九十一萬七千、馬四二十七萬頭にして開戰當初より戰地に送られたる兵數は將校二萬卒百二十七萬、馬四二十三萬頭、砲千六百門以上なり尤もこれは開戰の際既に滿洲にありたる八萬の兵數を控除したる數なりと又露兵の損害は將校七千五百、卒四十三萬三千なり

●奉天安東鐵道經營費
奉天安東縣間の鐵道線路は目下陸軍省にて三尺五寸機關式輕便鐵道を敷設し現に其運轉を爲しつゝあるか該線路は延長約二百哩内外にして一端は安東縣より京義線に連絡し他の一端は新民廳を經て北京に連絡するとを得へし將來頗る有望なるものなるが其經營費は未た之を知るを得すと雖も今民間に於ける鐵道專門家の推算する所に據れは少くとも二千萬圓を要すへしとの事なり

●沿海州の漁業地
沿海州の漁業權讓與は通商條約の一項として公使任命の上協定せらるへきとは既に決定し居れるか購和條約第十一條の所謂露國臣民及ひ外國人の既得權に屬する部分は勘察加の南端浦鹽斯德の北部及ひ黑龍江の河口都合三箇所にして最良の漁塲なるも其區域甚た廣大ならす殘餘の大部分は日本臣民に讓與せらるゝものなれは其内には有望なる箇所尠なからす漁塲免稅陸地の使用保護の規定等適當に協定せられんには必す有益なるものとなるへしと云ふ

●義勇艦隊建造談
義勇艦隊建造資金は國民の熱必に依りて好結果を得たれは差當り排水量三千噸高速力一時間二十一節乃至十八節の汽船一隻を製造せんとし川崎三菱兩造船所に見積らせたるに最初の豫算は約百萬圓位なりしも戰後船材其他騰貴の爲め三四十萬圓内外の增加を要するより更に英國大造船所三箇所へも見積らせたるが未た何れとも確定せされと內地にては竣成十八箇月を要し英國にては十箇月に過きすとなり右竣成の上は大阪商船會社にて臺灣航路に使用する契約成立し總督府も熱心に助力し同島丈にても優に七百萬圓の釀金ある見込なりと果して同航路に使用せは現在五晝夜を費せる航路を二晝夜にるすへく商船會社の貸付料としては船命を十八箇年間と假定し該建造費を十八箇年に割當て年々之を積立て、更に新造し永遠に艦體を失はさる方法なりと

●外債償還通知
內田紐育總領事は舊臘二十日我か大藏省より昨三十八年發廿六朱利付第四回外債一億圓を償還すへき訓令を受けたり而して右償還期及ひ其金額は左の如しと云ふ

三十九年三月	四千萬圓
同 四月	四千萬圓
同 五月	二千萬圓

●北極新航路發見
四十六噸の快走船ショー號にてアラスカなるエブベルト港より出發したる威諾の北極探撿家カピテン、ローランド、センセン氏は此程大西洋よりマツクンデー灣に到る通路を發見したりと云ふ此大發見は太平、大西兩洋を接續する新航路を得たるものにて世界交通の大變革を來すへしと尤も兩大洋の北極に於て接續し西大陸の一大陸の一大島なるへきことは地理學者の一般に信し居たる所なりしも眇たる一快走船を以て此通路を實撿したるは同氏を以て嚆矢とすへし

●英皇甥接伴員
英國コンノート太公殿下御來朝につき左の如く接伴員仰付られたり

陸軍大將男爵	黑木爲楨
海軍大將	東鄕平八郎
海軍中將	伊集院五郎
陸軍少將	福島安正
宮中顧問官	長崎省吾
陸軍步兵大佐	宇都宮太郎
海軍大佐	財部彪
式部官	渡邊直達
式部官	淺野長之

●乃木大將の精勵
第三軍司令部は目下陸軍戶山學校內にありて不日復員せらるゝ筈なるか司令官乃木大將は深く部下を戒め凱旋後と雖も復員までは戰地にあると同樣の覺悟を以て事務を執るへしと命し大將自身も每朝八時前必す司令部に出て終日事務を見つゝあり部員一同は今更なから大將の精勵に感し合へりと云ふ

●我俘虜到着期
露國に在りし本邦俘虜村上大佐溝口少佐以下一千六百餘名は本月三十一日神戶着の豫定なりしが航海の都合に依り村上大佐一行を載せたるカンブロマン號は二月三日、溝口少佐一行を載せたるバンクバー號は同六日神戶着の事に改められたりと

●露公使館の再開
去る十九日佛國郵船にて橫濱に上陸したる駐淸露公使舊一等書記官コザロフ氏は通譯二名と共に昨夜上京直に霞關なる露國公使館に入りたり同氏は新任公使の着任まて臨時代理公使の事務を取扱ふ筈にて一兩日中に外務省に對し其資格承認方を求むるよし尙同公使館員の語る所によれは新任公使は屋外電によりて傳へられたるブルガリヤ駐剳公使バクメチエーフ氏にして同氏の着任は今後二ケ月の後なるへし

●滿洲博覽會補助金
東京よりの報道によれは京、阪、神、名四商業會議所發案の滿洲博覽會には當局にても四萬圓程の補助金を下附する事となりたる由にて右に關し過日大阪商業會議所に於て東京大阪神戶、京都、名古屋の五商業會議所聯合役員會を開き各種の打合せを爲し石塚長官に隨行せしむる人物を決定し來る五日頃には奉天に開場する手筈なりと

●陸海軍新元帥
日淸戰役に際し第一軍司令官として偉勳を樹て日露戰役に於て第四軍司令官として殊勳を奏したる野津陸軍大將及び伊東海軍大將に對し不日特に元帥の稱號を賜はるへしとの說あり

●遼東と樺太の燈臺
從來海軍省所屬たりし近藤岬、老鐵山、老虎尾、白玉山及南三山島の各燈臺は本月一日より遞信省の管理に移れり

●文部次官後任
文部次官木塲貞長氏今回依願免官と爲りしに就き其後任に就て種々取沙汰あるも聞く所に據れは牧野伸顯氏の歸朝就任まて次官を置かす牧野氏親任の上にて決定すへく夫れまては福原專門學務局長次官の事務を取扱ふと也

●米國事務官グリーナ氏
米國の浦鹽斯德貿易事務官グリーナ氏は今回歸朝を命せられ去る十七日門司を經て長崎に向ひたるか同氏は日露戰前より同地に在任し開戰後は日本の利害を同地に代表し殘留日本人の送還及ひ財産の保護に就ては同胞も及はさる程の注意を加へたる爲め露國官憲よりは日探かと疑はれ種々なる迫害を受けたる由又た戰後同地大擾亂の際にも數十名の邦人は氏の手厚き保護に依て微傷たも受たるものなく家屋商品の如きも氏の盡力にて無難なりしと云ふ

●女子の結社許可請願
治安警察法第五條に於て女子は政治上の結社に加入し又は政談集會に會合し若しくはその發起人たることを禁しられ居るか右箇條の改正につき有志婦人より前期議會に向つて請願する處あり請願委員會に於ても其の議を容れたるか政府に於ては未た何等改定を加へさるより今回更に有志婦人團体より昨年同樣右箇條改正の請願書を提出することに決定したり

●安永通譯官被害事件
內田駐淸公使は昨年十一月十二日淸國滿洲に於て支那官兵の爲に安永通譯官の殺害せられたる事件に關し淸國政府に向つて談判中なるか結局本件は支那兵指揮官の免職、兇行者の死刑及ひ死者遺族の爲に三万圓の賠償金支拂を條件として不日落着すへしと

●新民府の近況
▲最近歸客の談に依れは目下新民府に居住する邦人は軍人約三個中隊、普通人男女合計百五六十人就中婦女四十名程あり更に邦人日用の機關に於ては料理屋二軒、旅館二軒、蕎麥屋一軒、商店十三軒を觀る、料理屋に於て最も評判の善きは朝日館にして旅館は石井旅館最も繁昌す尙は普通商店に於ては平岡組支店（主に木材）橋口（賣藥）有信公司（米及ひ木材）赤心舍（支那人向き雜貨品小賣）等稍や確實也

▲旅館の宿泊料は普通一泊五圓前後而して宿泊客は每日軍人八九人、普通人五六名、即ち兩者を合算して十四五名內外なりと云ふ

▲物貨は目下の所、何品も格別の在高なし試に計算せんか、淸酒二百樽、醬油五十樽、味噌七十樽白米百俵、丸太（一丈物）二千本雜貨は推算甚た困難なりと雖も復た格別の事非らじ

▲商況は甚た沈靜也、蓋し在品の多量なるか爲に非す不景氣に加ふるに顧客の少き結果也、而しては昨今の價物營口相場に比較し諸品通して約そ一割高に在り即ち商況に於ては目下格別に注目の價値無之き如しと雖も外蒙古と新民府との貿易は其の盛大なる寧ろ喫驚の價値あり街頭車馬の往來日々織るか如く依然として盛觀を持續せり試に積載貨物に就て之を見るに輸入品に於ては毛布及ひ綿糸綿布併に米利堅粉、等を主要とし輸入品に於ては牛皮、其他の家畜類の毛其の主なるもの、如し積載せる馬車は大抵、七頭乃至、九頭引なるか絡繹織る如き往來は實に奇觀也新民府は蒙古を距つる日本里程二十里に足らす實に蒙古貿易の咽喉なれは着眼、經營其の宜敷に從はんか蓋し有望の將來を得ん恨むへし今日の貿易は全然淸人の經營に係り邦人に於ては一人の關する者之れあらさる如し豈に悲むへきの至りならすや云々

▲更に同人は終に於て輕便鐵道に付て語りて曰く奉天及ひ新民間の輕便鐵道は工事、一切完了し去る本月の七日より一般に便乘を許可せり即後ち日々の便乘者を調査するに邦人の便乘者は僅々四五名に過ぎさるも支那人の便乘者は每日七八十名乃至一百人に達するを見る其運賃は一人一圓にて時間は新民府の八時に發車し奉天の着驛午後四時也云々

●商況
▲近來雜貨に於て賣行の稍や良好なりしは僅に支那人向き品種に過ぎさりしに近頃は其の支那人も新年早々にて一向外出せす賣場頗る少けれは商況は不況の上の不況也▲鑵詰品は依然として諸品一体に多量なるも賣行益々減少し昨今氣合愈々不振なり而して煙草も亦た在品は相應にあるも賣行頗る遲々たれは不況鑵詰と大差なし▲精米は目下價格少々下落し上物に於て一石二十一圓五十錢乃至二十二圓安物に於て石十九圓內外の相塲を保てり而して營口現在の在高は約一万三千俵にて需用は當用口に過きす中には內地 滿洲）に輸出を企てんと爲す者、無きにあらさる樣子なるも牛家屯停車輸送行にの因難なると內地も格別の見込あるまじ等の掛念等より手扣へつゝありと云ふ▲木炭も在品多量にして總体に於ては一万四五千俵あるも季節なれは氣合は相應に强し其の相塲は上等一俵、二圓二十錢下等一俵一圓二三十錢內外なり

●正金銀行の互樂會
正金銀行中村氏同夫人の催を以て愉快なる互樂會は去廿七日午后二時より同行內に於て開れたり此日雪を踏んで來會するもの領事員あり軍政署員あり守備隊將校あり實業家あり官吏あり有志者ありて主人公が如何に多方面に交際を有せらるゝかを知るに足る森副支配人以下三四の行員は玄關に來賓を迎接し一々案內して階下の玉突塲に導かる此處には碁局あり將棋ありトランプあり來賓は各自打集ひて或は黑白を鬪はすもの或は繪取りに熱中する者或は玉突に鼻競べを爲すものありて笑聲此處彼處に起る軈て空腹の時刻となれは主人公は別室の飮食店に案內せられ常飮党は酒店に這入り呵飮党はおでん屋そば屋に入りてシタゝカに飮むものあり喰ふものあり上院先づ萬歲を三唱すれば下院も負けじと萬歲を叫び互に其長尻を競ひつゝあり夜に入れば階上階下及廊下に吊せる球燈は點火せられ張り廻せる萬國々旗に映じて其美觀云はん方なし憊て餘興の時刻となれば來賓一同階上なる餘興室に到る正面の壁上に樂嘉賓なる風雅なる額あり隣室は常飮党の喫屋と見へて特に美酒（菊正宗）の安置さるゝあり餘興は行員一手にて引受け尺八ヅヰイヲリンの合奏あり蓄音機あり幻燈あり唱歌あり就中來賓をアツト云はしめたるは活動寫眞を飛び越したる活人間の活動幻燈なり其奇抜なる趣向には孰れも感嘆せさるものなく拍手喝采湧くが如し行員一同の多藝多能なる洵に驚くべきものあつて存す福引の催しあり頓智に老けたる某氏の趣向と思はれ中々巧妙に出來たり某將校の炬燵を引當てゝ呆然たる佐藤氏の鏡臺を持つて驚ける藤野氏のバケツを戴いて喜べる遠藤氏の雨傘と下駄を取つて踊れるが如き頗る興を添へたり屋外は寒風凛冽白雪皚々たるにも拘らず此夜の正金銀行內は春風駘蕩花笑ひ鳥歌ふの樂境を顯はせり互樂會とは能くぞ名付けたり十一時頃來賓孰れも退散す

●滿洲通信社の創設
新聞社創設せられ次で通信社の起るへきは時勢の進運上必然の結果なるが今般當地に於て其筋の許可を得て滿洲通信社なるもの創設せられたり此社は電報及び文章を以て滿洲各地の事情を日本各地の新聞社通信社及各團体に通報し又日本の狀況を當地及各地に於ける個人若くは團体に通報するを以て目的とし既に設備も整ひたれば愈々來る二月一日より通信業務を開始する筈なり主任は川村重治氏相談役は鈴木謙吉氏藏內庄太郎氏監督は松島宗衛氏なりと云ふ

●與倉長官の歸營期
或る重要用件の爲め北京へ出張中なる當軍政官與倉中佐は來月三日頃歸營せらるゝ筈なりと

●花柳病者の增加
古來俚諺は花柳病の發生期は多く若葉の出づる時にある如く耳にすれども事實如何なる原因か門外者の知る所にあらざれども頃來當地旅館料理店の藝妓仲居等の同病に罹る者日に多く每月三回の健康診斷日には必す二三十名の患者を生し就中甚しき料理店に至ては五六名の入院患者あり現に營口百軒內外の旅館料理店に於て無患者の料理店は恐らく一軒もなき有樣なる由なれば各登樓の粹家は大に警戒を要すとなり

●料理店の違警罪
豫て其筋より一般料理店及び旅館に對し夜間十二時後は各種の音曲又は放歌等禁ぜられたるにも拘らず違反する者多き由は屢〻耳にし又再三警告する所ありたるが尙は違反の料理店多く現に南永世街紀の國屋事松本春江の如きは之れ迄說諭を受けたる事も一再ならざるに一昨々夜又もや登樓客をして制規の時間後放歌せしめたるを憲兵現認し終に一昨日其筋へ召喚せられ違警罪の處分を受けたりと制規の時間後放歌して正式の處分を受けたる料理店は同家を以て嚆矢とす因に將來に於ても規則を遵守せざる家はビシ〳〵處分をなすべしと其筋の係官は語れり

送松野汝陰游淸國　花月山人

欲賦遼東秋又春　征帆萬里海天新
如今離國何須感　況是靑雲々裡人

次韵酬花月山人　汝陰山樵

一劍風塵過幾春　鵬程萬里見聞新
鞠躬功就歸朝日　聊報四方知已人

列車

▲上行車時刻表

車站名	午前點分	到午點分
新民屯至溝邦子	上六、〇〇	上九、五七
營口至山海關	上八、二〇	下六、〇〇

▲下行車時刻表

車站名	開午點分	到午點分
北京至山海關	上八、〇〇	下六、二〇
北京至天津	上[illegible]	[illegible]

野戰鐵道普通輸送列車發着時刻表

大連奉天間 下り列車

驛名	發着時刻
[illegible]	[illegible]

上り列車

驛名	發着時刻	
遼陽	着午後三、五〇	發四、五五
大石橋	着一〇、三二	發一一、三五
金州	着翌前二、二〇	發三、一〇

旅順發午後 五、三二 大連着

營口線 下り列車

天氣

營口地方 自昨日午後六時至本日午後六時

雜報

滿洲の産業狀態

井上辰九郎氏談

▲滿洲は荒漠の地に非らず　滿洲と曰へは世人動もすれは塞荒不毛の地なるか如く想像するものなきにあらすと雖も、其實決して然らす、到處善く耕作せられ、地味も亦た頗る膏腴なり。其農牧地としての價値は決して侮る可らさるものあり。

▲高梁の耕殖　先つ滿洲に於て第一に目に觸るゝは高梁の耕作なり、奉天遼陽の附近及ひ其以南に於て殊に盛んに栽培せらるゝを見る。余の本年滿洲に行ける頃は恰かも高梁の眞盛りの時なりき、其丈け八九尺、騎して其間を行くも人頭を沒して其影を見す、或は騎馬して更らに劍を差し上ぐるも、尚は其尖端を現はさすと聞く、其丈け頗る高きを察すへし。而して高梁と曰へは、邦人の如き米食民には誠に粗末なるものにして、食料に堪へさる如く想像せらるゝも、滿洲に於ては生活上極めて必要なる物産なり。其實は滿洲土人の食料として廣く用ゐらるゝのみならず、其稈葉は燃料に供せられ又建築材料となり及敷物に編まるゝものにして、滿洲の如き薪炭及木材に缺乏せる地方にては、高梁は實に缺くへからさる物品なり。又た高梁を以て酒を釀造す、燒酎の種類にして廣く滿洲土人に用ゐらる、一度滿洲都市に行けは、燒鍋局又は燒鍋行と稱する店舗を到處に發見せん、是れ則ち燒酎販賣店に外ならす、此販賣店は其釀造をも兼ぬるもの多きが如し。將來邦人の滿洲に經濟的發展を試むる場合には此高梁を以てする燒酎釀造業の如き蓋し注目すべきものゝ一ならんか。

▲麥粉の需要盛大なり　滿洲北部に於ては小麥の盛んに耕作せらるゝを見る、即ち麥粉は從來露人の間に需要せられたるのみならす、滿洲土民の間にも其需要頗る大なるものあり。余、滿洲視察の途次、彼の大會戰の行はれたる沙河の陣地を過ぎて殆んと寂寞の寒村に出つ、偶然一茅屋の門柱に「上々白面」の看板の掲げあるを見て、珍奇の感に驅られ、態々其家に入りて之を質せは「白面」とは即ちメリケン粉の事にして、面は蓋し麵に通ずるの語なることを知れり。此の人烟稀なる僻村に於て、猶ほ麥粉の賣店あると斯の如し、以て其需要の盛んなるの一班を知るに足るへきなり哈爾賓附近に露國の建設に係る製粉所四五ヶ所ありて、規模大にして成績良好なりと謂ふ。哈爾賓附近に於ては麥作殊に盛に行はる、旅順にも製粉所あり。今は荒廢に歸し居れり。即麥粉は獨り露人の需要に應するか爲めのみならす。亦實に滿洲土民に供給するか爲めにして從て製粉業の如き、其前途頗る有望なるを思はすんばあらす。

▲豆類　は實に滿洲に於ける最大物産なり、其牛莊より輸出せらるゝもの豆、豆粕及び豆油を合せて、年千五六百万個乃至二千万個に達するを見て知るへし、而して鐵嶺は實に其集散の中心地にして、即ち其府近一帶、豆類の大産地たるを知らん。豆油豆粕の製造所は處々の都市にあり、其製造法は一見極めて幼稚簡粗なる遣方なり、蓋し改良を加ふるの餘地あるへく、斯業の如き、邦人の宜しく注意を怠るべからさる所ならん。而して大豆及豆糟の輸出先は主として我國なるを以て殊に邦人の注意を必要とせさるへからす

▲毛皮に富む　又た吉林、齊々哈爾、蒙古方面には、甚た獸畜に富めり、貂、狽、狐、狗、猫豹、鼠等の種類ありて又た綿羊の如きも頗る著名なるものなり、故に滿洲は、獨り牛豚馬驢騾等所謂家畜的動物に於て非常に豊富なるのみならす、毛皮の産地として亦た重視すへし

▲柞蠶　又た滿洲は柞蠶の飼養頗る盛んなり、殊に蓋平海城岫巖等の方面に之を産し、營口よりの一年の輸出百五六十萬個に上れり、其輸出地は主として山東省にして、所謂山東製の絹紬なるものは實に滿洲より輸出せる柞蠶糸を原料として織成すものにして、中々精巧なるものあり。此絹紬製造業の如き亦邦人の注意を拂ふへき事業の一たるへきなり。

▲蔬菜及菓實の栽培　滿洲の地は蔬菜及菓實、殊に白菜瓜類、葡萄等の栽培に適すと謂ふ、我か出征軍人の中、農事の心得あるものありて種子を取り寄せ、開原地方に於て蔬菜の栽培を試みたるあり、其成績は頗る良好なるを得たりと。之を以て、若し邦人、續々滿洲に出掛けて、農事に從事せん乎、則ち米、麥、豆類を始め、蔬菜果實に至る迄、之を栽殖し得さるはなきなり‖要するに現に滿洲は既に中々耕作せられ居りて、其産物に富めるのみならす、其土地も頗る膏腴にして、農業地として其前途。蓋し大なるものあるを思はすんはあらす。

▲鑛業的價値　滿洲の地、其鑛物に富めるは世の夙に知る所なり、現に石炭に於て有名なるは撫順炭坑にして、千金寨楊栢堡老虎臺の三山にあり、其炭質の獨り優良なるのみならす、又た炭層の厚くして大なる實に非常なり、余は先年大冶鐵山を見て、其鐵鑛の外面に露出せるに一驚を喫せしか、撫順炭坑も採掘上特に深く穿つの要なく、全山悉く炭層と謂ふも不可なきの狀況を見て、再び驚きたり。目下採炭高は一日五百噸乃至千噸内外なりと聞く、其採掘には支那苦力を使用し、費用は一噸三圓内外の由なれとも、是れ戰時勞働の缺乏して、賃銀騰貴せるか爲めにして、今後其設備を進め、愈よ充分に採掘に從事するに於ては、蓋し一噸の採掘費は遙に減するを得へしと謂ふ、其他烟臺にも炭坑あり。此地の石炭は粉炭なるか泥土と混し煉瓦形に作り爐煤（るうめゐ）として煖室用に士人間に需要せらるゝに適すと謂ふ、又南冠堡店にも炭坑あり、亦人の知る所なり。

▲鐵鑛　滿洲は又た鐵にも富めるが如し。彼の鐵嶺と稱するは所謂峻阪險路の形容詞にあらすして、其鐵鑛を含めるを以て命名したるものなりと謂ふ、旅順の老鐵山の如き、亦た然りと聞く、其他滿洲には銅鐵類の名を冠せる場所多く畢竟鑛物の埋沒せるを示すものなるが如し。又た金銀に至ても甚た富めりと傳ふと雖も、調査未た詳ならす。從て果して豊富なるや否、知るべからす。

▲滿洲の工業　に至ては謂ふへきものなし、滿洲は未た農業時代を脫せさるなり、然れとも、若し強ひて之を謂へは、小麥の製造業、豆油、豆粕製造業等に過ぎず、是れ余の前に叙述せる所、其他は高梁を以てする燒酎の釀造業あるに過ぎさるなり。

山東省の沿海漁業

服部兵庫縣知事は曩きに清國漁業調査方を外務省通商局に依頼する所ありしか今回山東省沿海漁業に關し芝罘領事館より左の如き報告ありたり

▲魚の種類及漁獲高　漁獲高は統計の據るへきものなく又營業者の所説區々にして其實際の數に至りては到底確知するを得す只見聞する所を參照して其概數を示せるに過ぎさるなり

魚名	漁獲概數	魚名	漁獲概數
鯛	二三百万斤	鯖	二三百万斤
グチ	三四百万斤	太刀魚	二三百万斤
サワラ	百餘万斤	鰈	四五十万斤
コチ	二三十万斤	比目魚	十万斤内外
鱸	二三十万斤	エイ	十万斤内外
カナガシラ	同	鱈	同
鱶	同	コノシロ	同
ボラ	同	ハモ	同
海鼠	數萬斤	鰤	同

▲漁業の狀況　鯛及び『グチ』は多く芝罘近海に産し春季に於て漁獲すると最も多く夏及秋に至りても多少の漁獲あり最も多き時季には重に網を用ゐ少なき時季に至れは釣を用ゆボラ及「グチ」は生にて食するの外鹹魚及乾魚として北清及南清地方に輸出す鯖漁は網及釣を用ゐ夏季に漁獲し鹽漬として香港汕頭厦門地方及天津地方へ輸出す乾魚とするゝと少なし▲太刀魚は福山縣下八角口及山東角以南の沿海に産するもの多く春季の漁獲物にして凡て網を用ゆ生食するの外鹹魚となして他の地方へ輸出す以上の四種は當地方における漁業家の收獲物中の最も重要なるものとす▲鰆及鰤は海洋島廟島列島及威海衛等の海に産し鰆と皮をは收獲し肉は食用に供せす鰤は出漁中鹽漬として多く山西河南地方に輸出す露國の滿洲經營中は旅順大連等へも多額の輸出をなせりといふ▲鱸、鱈、コチ、ボラ、は冬季に於て漁獲し網及釣を用ふ此内鱈は鹹魚及乾魚となして他處へ輸出するものあれとも鱸、コチ、ボラは重に鮮魚のまゝ地方住民の食用に供す▲海鼠は威海衛及芝罘近海に産し漁獲せる海鼠は附近の島地にて湯煮の上乾燥し黒色及青色の色附をなす黑色の分は主として南清に輸出し青色の分は北清の需用に供す二三年前本邦漁船來り潜水器を用ゐて海鼠の採取に從事し成績良好なりしため之を聞き傳へたる本邦漁業者は俄に數十艘の漁船を差向け多數の潜水器を使用して競爭的に盛に漁獲したるため忽ちにして採り盡し其結果何れも多少の損失を被りて歸國し爾來海鼠の生産額非常に減少し今尚之に從事するものなきに非されとも成績甚た思はしからさるか如し

山東沿海の漁業には漁區なるものなし故に威海衛附近のものにして當地方及登州府等の沿岸に出漁し又當地方の漁民にして威海衛地方及山東角沿海へ出漁するとありても兩者の間に絶て鬪爭などありしことなしと云ふ只當地方漁業發達の途上に横はる一大妨碍は漁船の漁獲物强奪を目的とする小海賊の所在に出沒横行して遠く海洋に出漁する漁民を苦むると是なり▲漁業及魚類の賣買には課税するとなし唯船鑑札を受くる際船の大小に從て銅錢一千文乃至三四千文の手數料を納めさるへからす而して此鑑札は毎年受け換ゆへきものにして其都度上記の手數料を上納するものとす(未完)

廣告

春七句　野梅

淡雪の眉毛ぬらしてはれに皃
白魚の美し過ぎてあはれなり
春の夜や夢見ぬ人のあらはあれ
狂ひ出す命婦のお六朧月
梅百株われに鶏飼ふ心あり
梅の花貧家の鉢をかをりけり
鶯のこちむいて鳴く樣子哉

告示

關東總督府
陸軍大將男爵 大島義昌

出示曉諭事照得横濱正金銀行向於上海天津牛莊等埠專爲利便交易起見發行銀元鈔票所有納欵諸凡交易均用該票無異現元通用極便商賈爲之暢通實於商務有益已爲人所共知也及至滿洲前需兵燹之區我日本軍隊使用軍票是以該銀行暫行緩發者也日俄和平滿洲一帶全歸安靖商務亦將見其暢旺之興旺我軍隊隨即逐漸撤退所發軍票亦應收回於是横濱正金銀行茲奉我日本政府允准一面再行發票一面置銀備換以便商務而資滿洲貿易之發達爲此示仰各色族民紳商等一体知悉爾等嗣後即將該銀行所發鈔票暨關軍票均須通用勿得懷存猜疑可也倘有奸謡之徒謠言惑衆碍難通用以博漁利者一經査出立即從嚴懲辦決不寬貸各宜遵照無違特示

明治三十九年一月

告示

横濱正金銀行ハ從來上海天津牛莊等ニ於テ諸般取引ノ便利ノ爲メ銀ト引換ヘキ一覽拂手形ヲ發行シ來リシカ右ハ各種ノ公納其他一般商業上銀貨同樣ニ使用セラレ流通圓滑ニシテ金融ノ距通ニ資スル處多大ナリシハ業ニ已ニ普ネク知ル所ナリ曩キニ滿洲ノ地戰爭ノ區トナリシニ際シ日本軍隊ハ主トシテ軍用手票ヲ使用セシヲ以テ横濱正金銀行牛莊支店ニテハ一時一覽拂手形ノ發行ヲ見合ヘセシモ今ヤ平和回復シ滿洲ハ茲ニ全ク安靖ニ歸シ商務モ亦正ニ舊日ノ旺盛ヲ見ントス而シテ漸次軍隊ノ裁撤セラルヽコトニ從ヒ軍用手票モ亦之ト伴フテ交換回収セラルヘキヲ以テ横濱正金銀行牛莊支店ハ再ヒ一覽拂手形ヲ發行シ舊ノ如ク商務ノ便ニ供シ益々滿洲貿易ノ發達ニ資スル所アラントス右一覽拂手形ハ日本政府ノ認許ヲ得テ發行シ銀貨ヲ準備シ隨時交換ノ用ニスルモノナルヲ以テ汝等人民ハ之ヲ信用シ軍用手票ト同一ニ公私一般ノ取引ニ受授通用シテ毫モ疑アルヘカラス若シ夫レ奸譎ノ徒妄ニ浮説ヲ流布シ流通ヲ妨害シ以テ利ヲ博セントスルモノアラハ立トコロニ嚴罰ニ處シテ決シテ假借セサルヘシ各遵奉シテ違フ勿レ特ニ示ス

明治三十九年一月

關東總督男爵 大島義昌

告示

登記規則中改正の件

不動産登記規則中左の通り改正す

第十六條第一號中「千分の五十」を「千分の三十」とし同第二号「千分の十二」とあるを「千分の十」とす

告示

撫順大野兵站司令部にて來る三十日午前九時左の食用品及び糧秣品を競賣に附す二十五日より現品の縱覽を許す

競賣品目

干飯七十石携行牛鑵二千八百三十六貫普通鑵詰肉一万二千四百十四貫鹽鯛三千二百四十四貫茶三十五貫砂糖六十貫甘味品十四貫干魚六百三十貫干野菜一千百二十五貫醬油エキス五貫精米二十九石割麥二十石

牛家屯兵站司令部

藝妓仲居 新來御披露

此度新たに内地より藝妓仲居十數名を連れ參り候間御光來の上御評判の程願上候 草々

營口 高砂ホテル
高砂
(電話一四五)

奉天日本旅館
瀋陽館
家屋宏壯清潔
接待優遇懇切
開放全時ニ開業
奉天小西門外大街路北

御旅館兼待合所
並にうどん、そは
今般大々的勉强を以て右營業仕候間御乘降の都度御休泊被下度奉希候
牛家屯停車場前
若松家
各位樣

慶樂溫泉
清水滾々湧出
永世街一力南側

特別室落成披露
座敷は凡て日本式取扱至極鄭重に可仕候間陸續御來宿あらんことを伏て奉希上候
金城ホテル 旅館部

藝妓仲居 新來披露
今回藝妓酌婦無類の別嬪數十名件れ參り候間不相變御引立の程奉願上候
但し凡て純粹の江戸つ子
金城館料理部

寫眞 永清
奉天府 大南門裡路西

島田洋服店
東營口郵便局東隣

同支店
新民屯停車場前

會席料理 三日月
營口營務處前南へ入

Yano & Co.

矢野洋行

Telephone No. 137 電話一三七

諸雜貨、家道具類、吳服反物、蒲團類、婦人用小間物、下駄、足袋、食料品、其他種々

今回新荷着致候間直段も極安價を以て御用に可應候に付何卒多少に不拘御用命の程偏に奉願上候

謹言

謹賀新年

博文館營口代理店

書籍、銘茶 賣藥、雜貨商

大坂屋

今般永世街通平野町筋へ轉居し一層安價に販賣致候間舊に倍し御用命の程奉願上候

本家 日本東京神田鍛冶町 堀內大藥房

浅田飴 あさだあめ

肺癆痰喘氣急傷風痰嗽小兒風痰病後體弱肺病一切立見奇功

◎たんせき一切◎肺病の特藥◎ひきかせ◎病後のよわり◎弱き人の滋藥

特約大販賣 營口永世街 東瀛大藥房

滿洲大販賣所

營口出張店は結氷中引揚ゲ候ニ付御用向ノ御方ハ遼陽出張店ヘ御來店アリタシ

遼陽停車場前 池上出張店

奉天 池上出張店

標子 木板 料木 發賣

營口青堆子

清水寧木局

澤亀は醇良にして風味高尚なり

並ニ 札幌ビール 朝日ビール 政府專賣口付紙卷煙草 朝日 大和 酢 醬油 瓶詰樽詰 菓子 鑵詰 色々 洋酒類 取次販賣

醸造發賣元

宅合名會社

本店 大阪府堺市九間町

小樽支店 北海道小樽湊町

臺北支店 臺灣臺北街書院

基隆支店 臺灣基隆街石牌

臺南支店 臺灣臺南街下南河

函館出張店 北海道函館區辨天町

遼陽出張店 清國遼陽城內西街

大連出張店 清國大連監部

營口支店 清國牛莊港東營口

酒保品 諸雜貨 卸商

神崎洋行

營口永世街甲百廿七號警務課前

▲其ノ外新荷着種々安價大勉强▼

雜貨 醬油 味噌 清酒

營口西北街

阪神組

正札特別廉價 雜貨賣出し

一婦人髮道具一切及化粧品色々
一防寒シャツ手袋類
一靴下帽子類
一鑵詰及履物
一小間物一切
一賣藥色々

質屋 永世街森病院隣

和清洋行 志田ます

SPECIAL LIGHT (PILESNER BEER)

スペシャルライト賣出し

スペシャルライト、はピルスナビールにして此種のビールは日本に於ては弊社始めて之を釀造せり

スペシャルライト、は高價を拂ひて元料を特選せり

スペシャルライト、は其味輕くして高尚なり

釀造元 大阪朝日麥酒株式會社

營口發賣 關東公司雜貨部

工

營口元神廟前

飯塚工程局材料部

(電話百三十五番)

弊局土木建築材料品の各產地と特約を結び廉價を以て多少に不拘賣却仕候間御引立の程奉希上候

一北海道產松大角材外種々
一石灰、石材、敷石、砕石、煉瓦等
一日本石炭數種

萬事勉强乘車乘船好位置

營口中央市場前

旅館 東京樓

店主 熊田兼次郎 (電話百七十八番)

即席和洋料理 東京樓支店 (電話四十四番)

西洋料理仕出し御需應にず

和洋 會席 御料理

一弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に造附且又會費等は特に割引大勉强仕候

二奉天支店も本店同樣に大勉强仕候間御光來被成下度候

營口永世街二本町 日本館本店

奉天小西門外大十字街北入橋町 日本館支店 (電話百三十番)

各位樣

大日本帝國醫科大學模範藥局御用釀造

摂津灘石崎合資會社

澤之鶴 醇良清酒

滿洲特約大販賣

周 清國營口西北街 裕和盛號支店 電話八十一番

裕和盛販賣品目

○酒保用品雜貨
○日本酒澤之鶴樽詰瓶詰
○洋酒食料品各種
○和洋煙草各種
○菓子類各種

裕和盛本支店所在地

○本日本長崎梅香崎
○支店清國、芝罘、旅順、鐵嶺、
○支店韓國京城、仁川、木浦、

裕和盛は清商中日本通の張本

澤之鶴は既に定評ある天美錄

御旅館

奉天 小西邊門內路北

茂林館

日本物品依托賣買幷ニ滿洲各產物毛皮類ノ求ニ應ズ 追テ

家屋宏壯接待優遇

豫報

昨日の氣温 最高温度十七度八 最低温度零下八度六

列車發著時刻

唐山至天津	上六、〇二	上一一、二八
塘沽至北京	上六、〇〇	下一二、〇六
天津至北京	上一二、〇〇	下五、二〇
山海關至北京	上八、〇〇	下六、四五
天津至唐山	上一一、四二	下五、一七
天津至山海關	上六、二五	下六、二一
唐山至山海關	上六、〇〇	上一一、五八
山海關至營口	上七、〇五	下四、五五
溝邦子至新民	上三、〇〇	下六、五七

大石橋發 上り列車 奉天着 午前 一一、〇〇

遼陽着 午後 二、〇六

大連發 午前 七、三〇 旅順着 一〇、四九

營口發 午後 大石橋着 翌午前

論說

清國教育論

自大體上言之。凡日本所有各學堂之形式。清國亦莫不畢備。以教育振興見稱之地。概皆招聘日本教習二十人至三十人。其規模未大備之地。亦有九人或十人。而試向此等教習。問教育結果若何。雖謂有前途如海之望者不少。然其中多數之教習。不必以爲然。其說云。各學堂開辦伊始。報名入學者。其數甚衆。漸久漸減。未見大有進境云云蓋當局者所言。固宜注重。則清國教育之前途。似頗屬可憂。然以余觀之。教習諸氏所言。未必可謂洞悉事情者。顧日本教習諸氏現在清國各學堂者。概皆於日本大小學堂已臻美備後。肄習學業。大抵前五年或十年間卒業。然後前往清國。現從事於子弟教育。諸氏今乃欲以清國教育之現狀。比擬日本今日之教育制度。校較比擬。此豈非誤其較量之程準者耶。吾儕之肄業。在於約二十五年前。當時所有東京大學校。及豫備門師範學校等教育。取以比較清國現時之教育。不惟未見彼劣於我。且謂彼之進步有凌駕日本者可也。繼今以往。進而不止。則或五年或十年後更有發達可觀者。惟可憂者在於其事之中止。所謂中止者。各省總督巡撫得進步主義之人。即有張袁兩督或端中丞。盡心竭力。以任其事。則學堂亦日盛興。而一失其人。代以守舊主義之督撫。其前人所培養萌蘖。忽將摧殘枯死。隣邦如日本者。最宜爲清國計。常使進步主義之人。膺封疆大任。如此而注重教育一事。則未十年間。其結果必有足觀者。余所信而不疑也。且夫今日清國之要務。莫先於教育。所謂變法自强之道。不亦外乎再造清國。而欲再造清國。舍教育之外。可計可出。藉教育之力。以再造國家。徵諸史籍歷歷可攷。近之可鑒於日本。試想日本不廢其封建制度。以迨今日。曷能致今日强盛。雖上戴萬世一系之 皇。下有爲公忘私之國民。然侯伯割據。仍奉德川幕府之遺制。則何得有今日盛代哉。吾國維以後之變法事務。不一而足。而其根底未始不在於教育。一賴教育之力。以再造國家。其所獲效果。一發於日情戰役。再發於日俄戰役。是固所不待予之曉述者也。更鑒之於德國。雖其地較遠。然其事允切於清國。蓋方今德國雄視五洲。大有方興未艾之勢。而其事屬第十九世紀之後半。曾與墺太利交兵以來。國勢日熾。然前此當法王拿破倫第一之時。德國人以日耳曼聯邦之一國自居。而未有爲德意志帝國臣民之精神。迨其被拿破倫蹂躪。始以國家主義與民族主義。爲其國教育制度之根本。遂能致今日富强。蓋今日清國之現象。與一百年前德國之衰頽。略相類似。而推原其所以致此之由。實緣國家思想之缺乏。然此非不可治之。病德國前巳療之治之。日本亦略如此。清國豈獨有不可治之理哉。而求其治術。祇有教育一途而已。今日清國政治家及先覺之士。宜以教育爲第一要圖。職是故也。教育而由漸振興。日本即亦無唇亡齒寒之虞。故清國教育一事。其所關係不獨清國。卽日本亦不能置諸契然。惟所幸者。方今擔當清國教育者不乏有爲之士。即如陳寶琛於福州。如嚴又陵於天津。俱於滔滔宦海中。高拔時流。有如此名士。以總攬教育事權。亦不可爲清國前途慶乎。

中外要聞

●西藏添設電線　西藏安設電線久有是說昨得外部的確消息駐藏大臣二十七日有電到部請在拉薩地方添設電線並請撥欵自辦以免外人經手致滋宣洩外部堂憲會議咸以爲然昨已稟知慶邸矣

●澤尚李三大臣所至各國及𠋣隨各員之名單　本館特別報告澤尚李三大臣擬於中曆正月十五日由日本赴美再由美至英由英至比由比至法其𠋣隨各員則分而爲二日隨行日專駐隨行者徧歷各國專駐者即逕赴所駐之國俟考查事畢隨同回國計派駐日本者七員英法比共十一員又駐滬者三員茲將𠋣隨各員名單錄左

隨行各員　左秉隆　周樹模　劉彭年　陳恩燾　馮國勳
柏銳　戢翼翬　趙從蕃　楊壽枏　王慕陶　劉思源
姚鵬圖　關景賢　尚久懃　劉鍾琳　錢錫霖　葆椿
黃瑞麒　德奎　劉長禮　周藴華　曹復賡
駐日本　錢恂　唐寶鍔　楊道霖　錢承誌　夏曾佑
文瀾　孫守仁
駐英　嚴　張允愼　歐陽祺　徐世襄　李焜瀛
駐法　納葆棻　段慶熙
駐比　吳宗濂　楊燦麒　沈覲　蔣履福
駐滬　顧金壽　崔會耀　朱淑程

●光祿寺倂禮部先聲　光祿寺倂禮部已經振貝子上摺奏政府允否二十五日可以揭曉

●張宮保選擇各種書籍　近聞湖北等省文武學堂教科書籍等項前經鄂督張香帥悉心擬訂極爲妥善現在練兵處亦設立兵學堂所有一切教科書籍擬即飭令張宮保選擇各種書籍派委押解到京以期各生講習云云

●張家口運貨捐制　聞前張家口監督電致政府略謂該地方華洋雜處商賈輻輳爲畿北重鎭而路政未修行旅殊多不便雖擬設巡警餉絀兵單不敷分佈亟宜講求擴充籌其經費擬將張家口貨車駝騾駄過往頗繁擬于運貨物者按每套每駝酌捐制錢二十文騾駝牛車遞減爲數無多値班官兵稽查出入小費無幾查明各款一律化私爲公仍酌提津貼先行試辦俟收有成數以爲辦工巡基礎云云

●貴胄學堂重定章程　聞兵部練兵處前擬建設貴胄學堂已奉　旨派滿國璋管理頃聞該大臣重定章程悉屬周密並擬咨調冀州泰甯鎭之文案處閻寶琛等二員充當貴胄學堂中教習以資臂助云云

●戶部咨催各省以重幣制　聞戶部各堂議商查各省鼓鑄銅元已設局二十餘處之多前經咨催務將鼓鑄辦法章程造册送部以憑查核惟迄今未據咨報實屬玩延爲此三次咨催各省督撫務于開封前將章程報部勿得再行遲緩以重幣政

●津榆鐵路按段添設巡兵　聞津榆鐵路之道釘鐵板等項時有所失遇有火車經過稍不加意即有出險等情該鐵路大臣胡雲楣侍郎等擬按段添設巡兵隨時巡查以昭愼重

●將軍演說　將軍趙次珊留守日前至仕學館登堂演說約一點之久略謂諸公懷才待用久矣爾毋責上游賞識之不明惟患個人學業之不精夫賢者處世譬如錐處囊中其末立見苟諸君中有能專攻一藝者方且搜羅之而惟恐不獲安忍交臂失之況當此兵燹之餘正諸公發憤之日百廢待興人材實少本軍督部堂期望甚殷他日唯諸君是賴諸君尙其勉之又謂諸執事曰當局者果能辦事認眞本軍督必能百方籌畫創成此局夫何憂用度之浩繁又何患經費之不足但好爲之耳又顧諸生曰諸君果有欲專某門而無敎習者無妨將志願聲明本軍督必從遠方延聘高明以成爾志諸君其有意乎諸生聞此演說頗有嚮學之精神惟考試尙未訂期大約在十五前後云

●銀行失信　北京函云庫倫電稱近因俄內亂之故恰克圖庫倫之間俄國紙幣價値陡跌華商之往庫倫華俄銀行支取銀票每兩僅以六錢償還因之該行大失商民信用現在除中俄兩國之匯兌不得不由該行外餘如北京張家口等處皆由山西票號匯劃

●俄兵侵犯西豐　奉天訪事友人電云俄兵既退之後有俄國通事因犯賭博致被該處營官拿獲究辦俄國某武員聞之大怒竟帶俄兵二百名直至西豐與該處縣官理論云

叢談

●戈壁瑪瑙　蒙古部落咸鄰戈壁之間其地多砂石少草木一望斥鹵無溪澗山豆沙中產瑪瑙石子五色粲然質淸而潤或紅白如螺蛤或如蟬蝶種種肖形纖毫畢備二年刻楮之技未能過也又有白質黑章若畫中小景林木山橋點綴宛然奇怪怪莫可數陳造物生物之巧一至此乎

●查克木　瀚海一帶有查克木其樹無皮枝幹靑翠時着火即燃不必待其枯槁燒時有燄而無烟與炭相似

●小學歌　哥哥　弟弟　攜手進學堂　聽我　做個　小
學歌來唱　自古　四民　士農與工商　如今　四民　皆
須進學堂　海軍　陸軍　政法與路礦　種種　都以　小
學爲之倡　小學　不成　大學更難望　普通　功課　必
須知其詳　第一　學問　不可不精良　第二　規矩　敎
訓遵師長　第三　品行　舉止要端莊　德育　智育　體
育都要講　方今　五洲　萬國如虎狠　振與　學務　所
以比我强　我等　同胞　急宜將學講　若不　求學　國
滅與家亡　請看　印度　土地亦宏廣　不知　求學　至
今服西洋　請看　猶太　立國亦久長　不知　求學　國
滅散四方　請看　日本　三島海中央　威震　列國　全
球皆稱賞　不羨　日本　炮利與兵强　只羨　日本　無
數小學堂　我有　同胞　國民四萬萬　何難　發憤　從
此圖自强　自强　自强　全賴小學堂　小學　振興　不
患無棟梁　哥哥　弟弟　勤學不可忘　今日　學生　明
日爲將相

NEWCHWANG, TUESDAY, JAN. 30, 1906.

H. I. G. M. Wilhelm II., Kaiser of Germany, completed his 47th. year on the 27th. last. We join His Majesty's loyal subjects in wishing for many more happy returns of the anniversary. A striking likeness between His Majesty and President Roosevelt of America has been a favourite theme of comment during recent years. In exuberant energy, in impetuous temperament, in lofty scorn of exterior restraint, and in originality of thought and action, the two exalted exponents of strenuous life are reputed to bear a most close resemblance to each other. We read in the papers soon after the Peace Conference was over that the President thanked the Kaiser for the latter's hearty co-operation in bringing the Russia-Japan War to an early termination. Does this reveal still another personal trait embodied in common in the two great men—as champions of peace?

President Roosevelt, in his last annual message to the Congress, states:—"A wanton or useless war, or a war of mere aggression is to be condemned as a peculiarly atrocious crime against all humanity. - - - There can be no worse foe of mankind in general, and of his own country in particular than the demagogue of war, the man who, in mere folly or to serve his own selfish ends, continually rails at and abuses other nations, who seeks to excite his countrymen against foreigners on insufficient pretexts; who excites and inflames a perverse and aggressive national vanity, and who may, on occasions, wantonly bring on conflict between his nation and some other nations. - - - It remains our clear duty to strive in every practicable way to bring nearer the time when the sword shall not be the arbiter among nations. - - - My wish for peace is so genuine and earnest."

The world believes in the President's sincerity of purpose with the implicit faith of a child in his father. We will hope, for the ultimate glory of Germany and for the peace of the world, that His Majesty's wish for peace is not a whit less genuine and earnest than that of his twin-brother by likeness in America.

We are informed that, during the temporary absence from the port of Mr. H. E. Fulford, H.B.M.'s Consul, Newchwang, Mr. H. Higgs, Vice-Consul, will be in charge of the British Consular duties.

Mr. J. E. Foley, traffic manager of the I. C. Railway and Major W. W. White, I.M.S., Medical Officer Native Field Hospital, India, arrived at Yingkow Station last Saturday afternoon and were guests at Mr. A. G. Cox's. The two visitors called at the Administration residence on Sunday morning and were received by Capt. Horikoshi, Chief of Gendarmery, Lt.-Col. Yokura being away from the port. They were asked to dinner in the evening, which invitation was declined with regret, on account of their intended departure for Hsinmintun next morning. We learn that Mr. Foley and Major White were entertained at tiffin by Mrs. Ross Thomson.

Rev. Mr. Webster returned late Monday night week from a short run to Liaoyang. He left again for Mukden last Saturday.

Dr. and Mrs. J. R. Gillespie of Mukden came to the port a week ago and have been staying with Rev. Mr. Carson. They will remain here till Friday next.

Mr. P. V. Oudin left for Tientsin yesterday morning *en route* to Chinkiang to settle down there in business. Mr. Oudin's visit to the port just in the depth of the winter has been quite a grateful windfall to Newchwang society, having done much to relieve its monotony by the ungrudged display of his musical and vocal talents which are of no mean order. It is a great pity that his stay has not been any longer, and this regret is no doubt shared by all. We join his many friends here in wishing him every success.

It is with pleasure that we forego a few lines of our spare space for the sake of a British young lady with an apparent fancy for stamp—collecting. She has recently written us a very dainty picture post card reading in full as follows: "Dear Editor:—Will you please insert my request? Will readers please send me a few of your stamps (used ones) in exchange for either picture post cards or our stamps as they may choose? Yours very truly, Miss Dorothy Price, 19 Nortoft Rd., Bournemouth, England."

We will hope that the young lady's offer may find a tender response in many quarters.

To-day (Jan. 30th.) being another Japanese national holiday, 'Komei-Tenno Sai' (孝明天皇祭), there will be no issue of the "M. D. R." to-morrow (Jan. 31st).

營口旅館料理店案內（いろは順）

旅館　第一營口ホテル　元神廟街九十六號
旅館　第二營口ホテル　河岸通り
料理　第三樓　元神廟街三十二號　店主 粕屋忠兵衛
料理　入船亭　永世街百八十三號　谷初次郎
旅館　日營ホテル　河岸通り　店主 井上源吉
料理　東京館　永世街八十六號　店主 村上京四郎
旅館　東茂旅館　西北街百七十三號　正金銀行西三程
料理　沖の島　永世街十八號　店主 中川彌三郎
料理　吉野亭　永世街八十六號　店主 坪田正好
旅館　竹村館　永世街二十二號（電話五一）　店主 麻田久二
旅館　彌生館　永世街百六十七號
料理　やよひ　永世街百六十七號　店主 宮下只七郎
料理　滿月　平野町百八十二號（電話一六二）　店主 靑木勝惠
料理　滿洲樓　南永世街第十號　店主 直塚勝一
料理　萬梅　豐濟門街第百〇四號　店主 田島彌助
御料理　まんなをし　永世街字二本町二百五十九号 元吉田屋跡　店主 和田常松
料理旅館　醉花園　澁谷旅館　永世街百二十七號　店主 澁田留吉
旅館　大和館　永世街六號　店主 前田九一郎

旅館　金城ホテル　永世街百六十六號
料理　第二金城ホテル　永世街百六十六號　店主 齋藤富次郎
旅館　東雲旅館　永世街七號　店主 谷口今朝太郎
營口軍政署御用旅館　東雲　主任 谷口今朝太郎
さるそば　第一更科　營口元神廟街
さるそば　第二更科　永世街鶴の湯角
和洋御料理　第二東京館　元神廟街　店主 松田巽四郎
東京一流　かき飯　營口元神廟街一四三号
洋和料理　本店 松月亭
和洋料理 御旅館　支店 滿洲ホテル　遼陽西街西門一一七号

遼陽旅館料理屋案內

旅館料理業　日營ホテル支店　主任 井上源吉
御料理會席　菊水館　主任 朝枝團揖
旅館西洋料理　遼陽館　主任 永瀨宇吉
旅館料理業　公陽館　主任 宮川秀基
御料理會席　末廣屋　主任 山根初之亟
御料理　凱旋亭　色々應御注文　主任 古谷庄太郎
旅館御料理　遼塔ホテル　主任 木村常吉
遼陽兵站司令部指定ホテル　遼陽倶樂部　營口東雲館支店　主任 谷口今朝太郎

會席御料理　玉家　主任 西野治三郎
御料理會席　來々亭　主任 石田淸

料理 御鋤焼　花樂亭　營口元神廟街　眞主 元權兵衞

諸鐵工製作
鑛山船舶機械鐵工
輕便鐵道附屬鐵工
土木建築用鐵材料
其外鑄物諸般
營口綏定商會門東シツプ街
喜川鐵工場

爲替相場（一月廿七日）

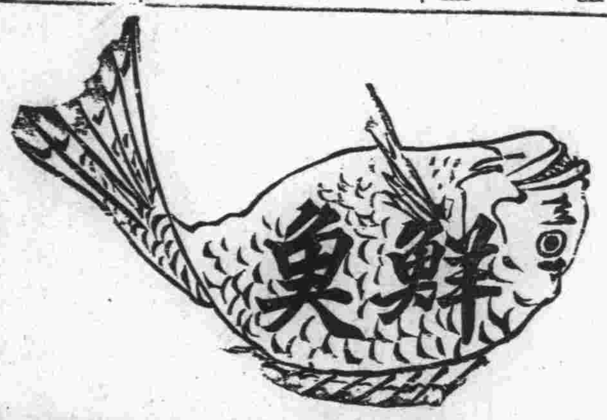
日本向　軍票百圓に付金九十五圓五十錢
上海は　百圓に付六十七兩二錢五分
天津向は百圓に付一百〇八五圓五十錢
芝罘は　天津と同直段

日本品最近物價表　加藤洋行調査

糟物類
菊正宗　三斗九舛入　銀二十圓
麒麟正宗　四斗四舛入　同十七圓
菊正宗 瓶詰四打　同十五圓
仝 [illegible]　同[illegible]圓

鑵詰
ラッキヨ　四打入　同十三圓
辛子漬　五打　同十四圓五十錢
フキ　四打　同九圓五十錢
[illegible]　仝　同八圓
菜[illegible]　仝　同十四圓
鷲ミルク　仝　同十八圓

石炭（飯塚工程局）
一上等塊炭　一噸ニ付　銀十八圓
一仝切込　仝　仝十七圓五十錢



弊店儀雜貨專業之處今般營業務擴張の上日本は勿論滿洲に支店を設け併て鮮魚の御小賣充分勉强の上御用達可申候間倍舊の御用命被仰付度奉願上候　敬具

營口南永世街百廿七號
森屋洋行
大連大山通り二丁目
仝 支店
遼陽西門外
代理店 林洋行
奉天小西門外
代理店 米田洋行

御徳用
新着急告品
○食料鑵詰○
○塩魚干魚鰹節○
○乾物色々○
○龜甲万印醬油○
○赤白味噌○
○菓子類数種○
○銘茶各種○
營口永世街警務課前南へ入
林屋洋行

御旅館　上海（電話一〇六番）
豐陽館
日本郵船會社荷客取扱
歐米流船乘船取扱
館主 米田藤吉

北京
扶桑旅館
東單牌樓大街路西
客室淸潔料理鮮新

御旅館
天津
芙蓉館
駐屯軍御用
並西洋料理
（電話四十一番）

西海洋服店
歐米各國最新流行形
永世街一四一（森病院三軒目）
（電話百二十七號）

○上等石炭　一噸に付　銀十六圓
○上等日本米　一石に付　銀二十圓
○板材木　○木炭
○亞鉛板　○洋釘
○干塩魚　○石灰
御小賣致候間御用の御方は御通知次第直に持參可仕候也
喜久洋行
永世街八十號（電話百五十二番）

外に
電柱用材杉丸太長（自二十尺至三十尺）八千本餘
用材北海道産松大角（自廿五尺至三十尺）一万立方尺餘
右之品多少に不拘特別安價を以て差上候條御入用の御方は御來臨被成下度候也

發賣　材木　標子　木板
建築
塩川商會
清國營口二本町二五五號
主任 鹽川峰吉（電話一三六番）
遼陽小西門內
鹽川商會

營口永世街
營口印字局

◎フレノロジー
頭腦を觀察して身の上はんだんをなす
營口豐濟門街廿三號 李俊氏宅の西半町
利生堂

S.KATO & Co.
Hongname "Chah Tung."
Yingkow, Telephone No. 80.
Main Store.
Japanese Concession, Tientsin,
General Store-keeper & Commission merchant.

銘酒 菊正宗 新着!!
營口明覽年定價にて差上ます
祝新年
雜貨商
加藤洋行（營口電話八十番）
本店 營口
支店 天津日租界 大阪
出張所 遼陽 北京

MANCHURIA DAILY REPORT.
Subscription　4 cts. a copy
80 cts. per month.
$2.30 per 3 months.

本紙定價
一枚ニ付　銀四仙
一ケ月前金　銀八十仙
半ケ年前金　四弗八十仙
一ケ年前金　九弗六十仙